



不動院と観音院

共栄大学名誉教授
全国歴史研究会会員
内藤 徹雄

1. 小淵にあった大寺院

春日部駅の北東、国道16号と県道319号及び320号に囲まれた地域は不動院野と呼ばれています。かつてここには不動院野村がありましたが、明治22年(1889年)に近隣7か村の合併で北葛飾郡幸松村になり、昭和29年(1954年)の町村の合併によって春日部市になりました。不動院野という地名の由来は、古くは隣村の小淵村にあった不動院の寺領であったとか、原野を不動院が開拓したからだという言い伝えが残っています。

さて、不動院というお寺は今では痕跡をとどめていませんが、明治時代まで小淵の古利根川の辺りにあった大寺院です。

1800年頃に江戸幕府により作成された「日光道中分間延絵図」には、不動院の大伽藍が描かれています。絵図には日光街道沿いに今も残る観音院も載っており、観音院の南の小道を現在の小淵橋の方向に500Mほど入ると不動院にぶつかります。道の両側には門前町もできており、屋根付きの3つの門を有する長堀に囲まれた境内は4500坪もあったそうです。絵図では不動院の北に少し離れて、現存する曹洞宗の浄春院も描かれています。

2. 修験道(山伏)の寺

不動院は修験宗本山派の京都聖護院傘下の寺院で、1500年頃法印秀円という山伏により創建されたと言われています。修験宗とは日本古来の山岳信仰と平安時代に伝来した密教が結びついた神仏習合性を持つ仏教の一派で、不動明王の霊験をうやまい、修験者(山伏)が山岳地帯を修行の場として心身を鍛錬し悟りを得る修験道を実践するところに特徴があります。修験宗には天台宗系の本山派(京都聖護院)と真言宗系の当山派(宇治醍醐寺三宝院)の二派がありました。戦国時代には各地の大名が情報収集など軍事目的に活用するため修験者を保護し、不動院も小田原の北条氏と結びついていました。徳川家康の関東入国以降は、その庇護をうけて将軍家より100石の朱印地を賜り、門前には葵の御紋を掲げていたそうです。不動院は小田原の玉龍坊と並び関東全域の本山派修験寺院を統括し、その傘下の寺院は江戸後期には現在の埼玉県東部地域だけで53か寺に及びました。

3. 不動院の跡地

北春日部駅東口から宮代方面に300Mほど進むと、右手に古利根川に架かる小淵橋があります。この橋を渡り約200M先の左側には前田コルク工業がありますが、この付近が不動院の山門のあった場所だと言われています。そして、この

北側が境内であり、現在の自動車教習所を含む広大な敷地に壮麗な堂宇が建っていました。

4. その後の不動院

江戸時代に隆盛を極めた不動院も明治に入ると急速に衰退の途をたどります。

明治政府はそれまでの神仏習合を改め、明治元年(1868年)に神仏分離令を發布しますが、神仏習合の修験宗には大きな打撃となりました。続いて明治4年に社寺の所領奉還命令が出され、さらに明治5年(1872年)には人心を惑わすものとして修験宗を廃止する布告が出されました。不動院は天台宗寺門派に改宗することで明治以降もろうじて生き延びましたが、寺勢は振るわず敷地は五分の一に縮小し、明治40年頃東京の砂町(現江東区)に移転しました。その後、昭和20年3月の東京大空襲で戦火に遭い、敗戦の混乱の中で別の寺院に吸収され消滅しました。不動院の本尊不動明王は鉈一丁で制作されたという言い伝えから「鉈切り不動」と呼ばれ、現存すれば国宝級の逸品であるといわれていますが、惜しいことに東京大空襲で焼失したそうです。なお、明治5年(1872年)の修験宗廃止令に対する修験宗側の反発は根強く残り、戦後の昭和21年(1946年)に京都の聖護院を本山として修験宗本山派は再び独立し今日に至っています。

5. 観音院

現在も小淵に健在である観音院は、口碑によれば正嘉二年(1258年)の創建で、開基当時は天台宗でしたが、その後修験宗に改められて不動院の客分の資格を有していました。観音院は観音信仰の霊場であったことから、明治以降も廃寺をまぬがれました。現在も昔と同じ場所(国道4号線沿い)にあり、修験宗小淵山正賢寺と号しています。元禄2年(1689年)の建立で春日部市の有形文化財に指定されている楼門(仁王門)や文政8年(1825年)修理の本堂が現存しています。本堂の格天井には花鳥の彩色画が描かれ、本堂の軒下には龍や獅子などの見事な彫刻が施されています。また7体の円空仏が伝えられており、現在は埼玉県の有形文化財として県立博物館に寄託されています。毎年8月には県内の山伏が参集し、護摩修行を行うなどかつての不動院のよすがを今に伝えています。

【筆者紹介】

共栄大学名誉教授(元副学長)、全国歴史研究会会員、専門は国際経済、国際金融。中学時代より「趣味は歴史」を貫き、現在も歴史探訪を続ける。